

研究計画書

<p>研究者：村松亜由美 所属部署：袋井市立聖隷袋井市民病院 看護部 4階病棟 共同研究者：渡邊真智子¹⁾，二橋宏嘉²⁾ 共同研究者の所属部署：1) 袋井市立聖隷袋井市民病院 看護部 4階病棟 2) スズキ株式会社磐田工場工務グループ</p>
<p>研究テーマ 転倒発生の場所と要因分析—転倒総数が減少しても減らない要因の検討—</p>
<p>研究の背景・意義（先行研究及び関連文献の検討を含めて記述する）</p> <p>2018年にA病棟において、同一患者の複数回転倒が続いた。中村(2008)は、転倒を繰り返す高齢者は、転倒によって得られた否定的経験から再転倒への不安を増幅させ、その結果自らの行動を再規制し縮小させる消極的な行動への変化を明らかにしており、高齢者が安全に入院生活を送るための医療者の役割は大きい。秋山(2017)は転倒転落後の現場検証を多職種で行うことにより、スタッフが患者の身になって要因を分析し患者の行動の根拠やつらさに気づき、その人に合わせた個別な対策を計画・実施するようになったと述べている。A病棟は、転倒による高齢者への影響を低減させたいという思いから、他施設の先駆的取り組みを参考にして、2018年11月に転倒検証プロジェクトが発足した。転倒検証プロジェクトの活動目的は、同一患者の再転倒を予防することとした。転倒検証プロジェクトでは、転倒事例の翌日に多職種で転倒検証を実施し再転倒を予防するための具体的な対策を立案することや、四半期毎のミーティングを行い、職場の業務改善に繋げることを継続している。活動開始から、2年を経過したところで、転倒総数や再転倒数は減少した。</p> <p>今回、転倒を更に減少させる目的で、転倒事例を分析する。転倒場所や転倒に至った患者側の要因（行為やニード）に着目し転倒発生数とその推移を明らかにする。更に転倒検証プロジェクトの活動を振り返ることで、今後の転倒予防対策に活かせる課題を探ることとした。</p>
<p>研究の目的 転倒事例における発生場所や患者側要因に着目し、分析することで転倒予防対策に活かせる課題を探る</p>
<p>研究方法</p> <p>① 研究デザイン 調査研究 IAレポートの後ろ向き調査</p> <p>② データ抽出期間 2018年4月1日から2022年3月31日</p> <p>③ 研究対象者 A病棟において、2018年4月1日から2022年3月31日にIAレポートで、「転倒・転落」として報告された患者</p> <p>④ 研究期間 倫理審査承認後～2022年10月末日</p>

⑤ 研究方法

IA レポートを後ろ向きに調査する。「転倒転落件数」、「転倒発生場所」、転倒に至った「患者側要因」を明らかにする。データ抽出期間を年度毎に区分けし、転倒件数や転倒発生場所、転倒に至った患者側要因の件数や割合の推移を明らかにし、今後の転倒予防対策に活かすための課題について考察する。

倫理的配慮

本研究は、袋井市立聖隷袋井市民病院倫理委員会の承認を得て実施する。収集したデータは、本研究以外で使用しない。研究で収集した全ての紙媒体及び電子データはデータ収集を行った順に ID 化し個人が特定できないよう匿名化を行う。データの抽出から分析の過程でインターネットに接続可能なパーソナルコンピュータ上には保存せず、パスワードロックをかけた USB メモリに保存する。データは院外に持ち出さない。保管は、院内の施錠可能な場所で研究終了後 5 年間厳重に保管し、その後、電子データは媒体から完全に削除し、紙媒体はシュレッダー処理により粉砕する。

【倫理研修】共同研究者（渡邊） APRIN RCR/HSR 受講済（#AP0000158766 西暦 2019 年 1 月 21 日修了）

同意書の手続き

本研究は診療録を用いた調査研究であるため、研究対象者から文書あるいは口頭による同意取得は行わない。但し、人を対象とする医学系研究に関する倫理指標で示されている「インフォームドコンセントを受けない場合において当該研究の実施について公開すべき事項」の公開と被験者または代諾者に研究参加拒否の機会を与えるため、オプトアウトについての資料を提示する。

結果の公表予定

本研究の研究結果は日本転倒予防学会第 9 回学術集会への発表及び学会誌の論文として報告を予定している。公表の際には、研究対象者の個人情報特定されないよう匿名化する。

引用・参考文献

- ・中村陽子(2008). 転倒を繰り返す高齢者の再転倒後における転倒恐怖感を与える影響. 福井大学医学部研究雑誌 9(1, 2), 19-34.
- ・秋山ゆかり(2017). 転倒転落事例に対するウォーキングカンファレンスによる現場検証. 第 47 回(平成 28 年度)日本看護学会論文集 看護管理(2017), 297-300.
- ・渡邊真智子ら(2021). A 病棟における転倒再発を予防するための取り組み～転倒検証プロジェクトの活動を通して～. 日本転倒予防学会第 8 回学術集会, 136.
- ・村松亜由美ら(2021). 転倒時間帯に着目し、転倒発生を減少させた取り組み. 日本転倒予防学会第 8 回学術集会, 108.

研究計画書の提出日 2022 年 6 月 6 日

研究計画書の修正日 2022 年 6 月 8 日